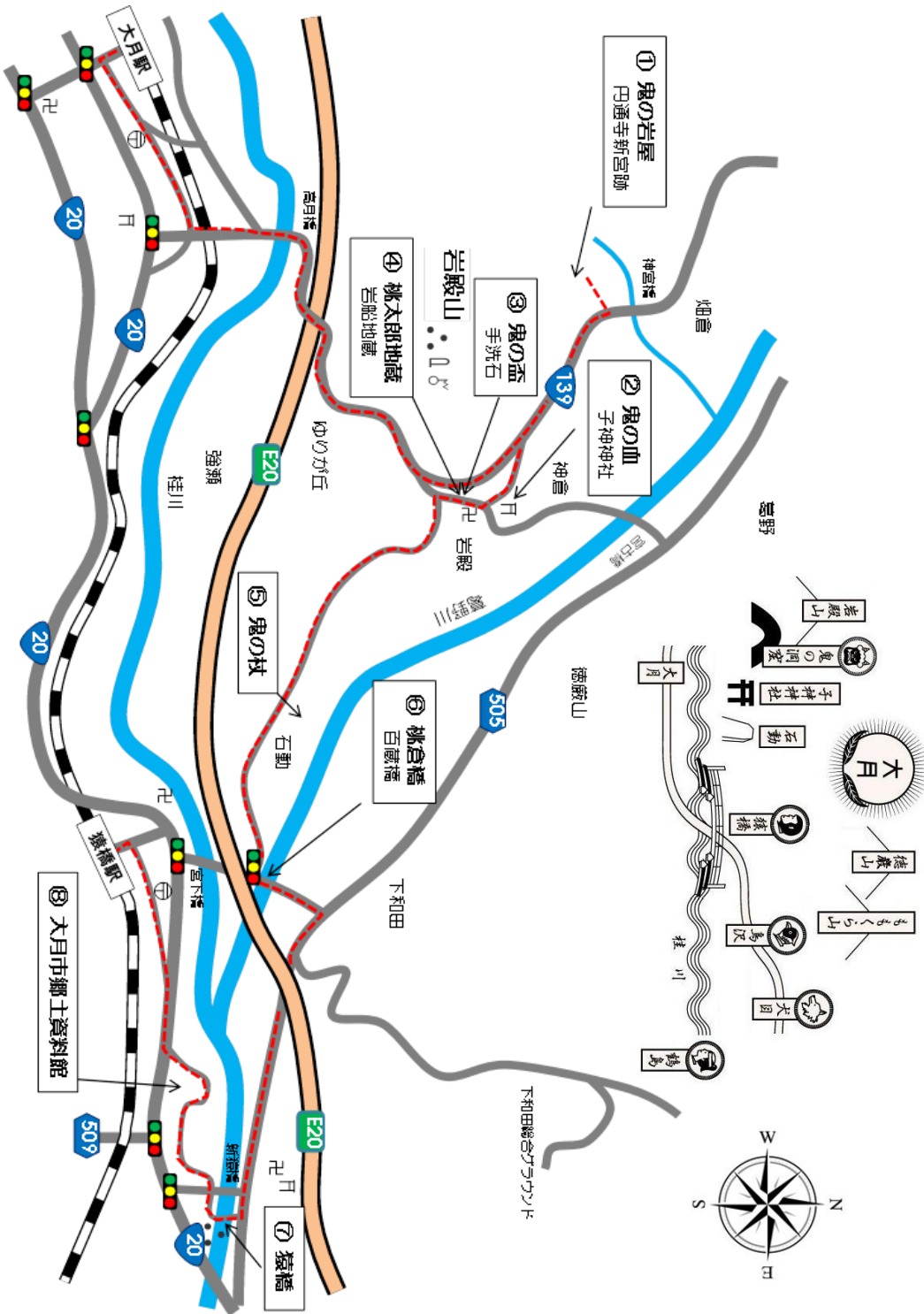


## 大月の名所をめぐる小さな旅

# 大月桃太郎伝説の地を歩いてみよう

大月市郷土資料館



### ① 鬼の岩屋 (円通寺新宮跡)



新宮は修験道山岳寺院だった円通寺の伽藍(がらん)の一つで、神宮橋から南に200mほどの位置にある岩窟内に社殿が造られました。

古書によると、岩窟に柱を立て岩を直に天井として正面が三間、洞窟内部に向かって七間とあります。また、古絵図には、正面に妻と見せた懸造(がけづくり)の建築物が前方

の谷へと突き出していて、上から滝が落ちてくる情景が描かれています。

残念ながら、現在は社殿もなく、滝も大雨の降った後でしか見る事ができません。

また、洞窟内から外を見ると、富士山の形に切り取られた風景を見る事ができます。(現在は立ち入り禁止)

「大月桃太郎伝説」では、この新宮跡を鬼が棲んでいた「鬼の岩屋」としています。

### ② 鬼の血 (子神社)

808(大同3)年9月の創建と伝えられています。

岩殿山円通寺(現在廃寺)の鬼門(北東(丑寅))に当たるため、国津神(くにつかみ)の首領でありネズミを神の使いとする大己貴命(大国主命)を御祭神として祀ったので子神社と名付けられました。

明治維新までは岩殿山七社権現が岩殿村の産土神(うぶすながみ)でしたが、円通寺の廃寺によって明治以降は岩殿村の産土神氏神として崇敬(すうけい)を集めています。(山梨県神社庁HP)

「大月桃太郎伝説」では、境内の土の色が赤いのは、赤鬼が、桃太郎との戦いで逃げ出す時に隣の徳蔵山に足をかけようとしたら股が裂け、その時に流した血が今も赤土となって残っているからだとしています。



### ③ 鬼の盃（手洗い石）

賑岡公民館岩殿分館の市道を挟んだ西側の空き地に150cm×155cm×75cmほどの大きさで中央が丸くくぼんだ錐体の石があります。

石の側面には「奉納 天保十一年庚子年三月日 若者」と刻まれています。

ここが、明治維新までは円通寺の観音堂や三重塔、鐘楼があった場所であることや、その形状や刻字から、この石が「手洗石」であることがわかります。

「大月桃太郎伝説」では、この石を岩殿山に住む鬼が使った「鬼の盃」としています。  
※天保11年（1840年）



### ④ 桃太郎地蔵（岩船地蔵）



「鬼の盃」の西側すぐ近くの林の前に石の船に乗った地蔵菩薩像が立っています。

石の船には、年号はなく「施主、葛野村、強瀬村、下和田村、岩殿村」の文字が刻まれているのがようやく判読できます。

その姿と刻字から、「廻り地蔵」として有名な「岩船地蔵」だと考えられています。

「廻り地蔵」の習俗は全国的にみられ、一つの村なかを家ごとに送るものや広い地域を村単位で巡るものもありました。

その中でも、「岩船地蔵」は、江戸時代中期の享保4（1719）年頃、下野国岩船山高勝寺（現 栃木県栃木市岩舟町）を出発し、関東や

中部の各地を村送りされ、一時期大きな信仰を獲得しましたが、その由来や巡行の経路についてはまだ明らかではありません。

岩船地蔵が送られてきた村では、それを迎えて、華やかな服装をし、賑やかに囃し立て、念仏をし、自村だけでなく、近隣の村々まで巡りました。

そしてそれを受け取った村でも同様に行い、順次村送りされて進みました。

この「岩船地蔵」は、その記念として造られ、祀られたものと思われます。

「大月桃太郎伝説」では、「岩船地蔵」が左手に持つ宝珠を「桃」に見立て、「桃太郎地蔵」とよんでいます。

### ⑤ 鬼の杖

大月市宮石動団地の西にある畑の一角に、高さ125cm、幅42cm、厚さ19cmの花崗閃緑岩でできた直方体の石が斜めに突き刺さるような形で立っています。

斜めに傾くその先には岩殿山があることから、岩殿山に住む鬼が投げた石杖であるとの話がいく通りも昔から伝わっています。

あわせて、この石のある場所の小字（こあざ）である「石動」も、鬼の石杖が突き刺さった時に起きた地震によることからつけられたものとしています。

諸説ある中で、「大月桃太郎伝説」では、犬目で犬を、鳥沢で鳥、猿橋で猿を家来にした桃太郎が、猿橋から岩殿山にいる鬼に向かって「これから退治に行くぞ」と呼びかけたところ、怒った鬼が左手に持っていた石の杖を猿橋の方向へ投げつけたものの、左手だったために猿橋まで届かず、途中の畑に落ちてしまったとしています。



### ⑥ 桃倉橋（百蔵橋）

葛野川にかかる橋で、中央付近から上流を眺めると、

- ・赤鬼が住んでいた岩殿山
- ・逃げるときに跨いだ徳巖山
- ・桃が転げ落ちた百蔵山（桃倉山）
- ・桃が流れ下った葛野川

など、「大月桃太郎伝説」の舞台が一望できます。

### ⑦ 猿橋

猿橋は、橋脚をもたない桔橋（はねばし）という特異な構造をもつ橋です。古くから日本三奇橋の一つに数えられ、全国的に名所として知られています。

ます。



### ⑧ 大月市郷土資料館

大月市の歴史を学習することができる施設です。猿橋を見学する前に、した後にぜひともご来館ください。中学生以下は無料です。